

# イネカメムシの発生に 注意してください!



イネの穂を加害する斑点米カメムシ類のうち、近年、主に県東毛地区で「イネカメムシ」の発生が多くなっています。県内での発生地域も拡大傾向にあります。出穂期頃からの加害により、不稔米や斑点米が生じ、収量・品質の低下が懸念されます。

## 特徴

- ・成虫の体長約 12 ～ 13mm と大型。
- ・イネへの嗜好性が強く、雑木林などの越冬場所から直接水田に侵入する。
- ・穂が出る頃から水田に侵入し、穂が出た頃から加害する。  
 [ 出穂直後の穂からの吸汁で「不稔米」が発生し、**収量が低下**する。  
 [ 乳熟期頃の吸汁で「斑点米」が発生し、**品質が低下**する。 ]
- ・水田内で産卵、増殖する。



水田ほ場内の成虫



吸汁被害により発生した斑点米



越冬地での様子



左端は成虫、他は幼虫

写真：館林地域農業課、農業技術センター

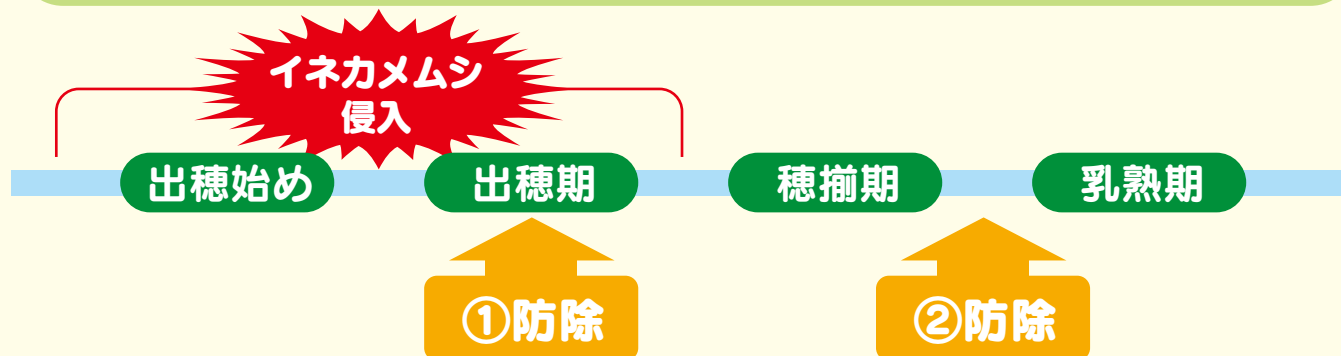
水田や周辺での見回りによる **早期発見** が重要です。

### 見つける POINT

- ・周辺の水田より出穂期がとても早い、またはとても遅い水田ではイネカメムシが集中するため、見つけやすくなります。
- ・真夏の暑い時間帯では、イネの株元に潜ってしまい見つけづらいため、気温の低い早朝や夕方に確認してください。
- ・ふ化直後の幼虫は小さく、発生に気づかない場合があります。

# イネカメムシの防除対策

イネカメムシ防除には、薬剤による水田内での防除が最も有効です。



**1 回目防除：出穂期（不稔籾防止）**

**2 回目防除：1 回目防除から7～10 日後頃（斑点米防止）**

- ・ 1 回目の防除は、他の斑点米カメムシ類の防除適期より早くなることに注意します。
- ・ 水田ほ場内で発生が多い場合は、  
出穂始め（水田内の穂が一番始めに出た頃）～出穂期に 1 回目の防除を行います。
- ・ 豆つぶ剤、粒剤は防除適期の 2～3 日前を目安に散布します。
- ・ 顆粒水溶剤、液剤は防除適期に散布します。



## 【防除薬剤例】

各薬剤の登録内容は令和7年6月13日現在

| 商品名          | IRAC<br>コード | 希釈倍数・<br>使用量 | 使用時期     | 本剤の<br>使用回数 |
|--------------|-------------|--------------|----------|-------------|
| (指)スタークル液剤10 | 4A          | 1,000倍       | 収穫7日前まで  | 3回以内※       |
| (指)スタークル豆つぶ  | 4A          | 250g/10a     |          |             |
| キラップフロアブル    | 2B          | 1,000～2,000倍 | 収穫14日前まで | 2回以内        |
| (指)トレボン乳剤    | 3A          | 2,000倍       | 収穫14日前まで | 2回以内        |
| スミチオン乳剤      | 1B          | 1,000倍       | 収穫21日前まで | 2回以内        |

※有効成分（ジノテフラン）を含む農薬の総使用回数は4回以内。

農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。

(指)…群馬県抑制指導農薬  
詳細についてはこちら



本虫に関する防除等については、お近くの県農業事務所にご相談ください。

県内における最新の情報は、県米麦畜産課ホームページをご確認ください。（右の QR コードからご覧いただけます。）  
(<https://www.pref.gunma.jp/page/709526.html>)



QR コードは  
株式会社デンソーウェブの  
登録商標です。